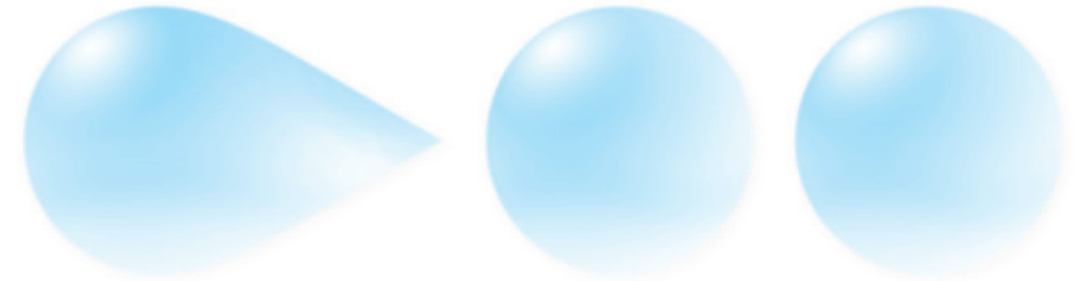


第69期中間報告書

平成25年4月1日～平成25年9月30日



Ecologically Clean

ホームページのご紹介

●TOPページ



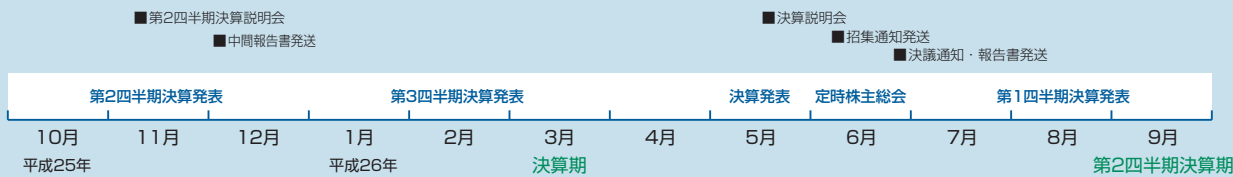
IRページ
最新のIR情報を提供しています。
決算説明会資料では中期経営計画
についても説明しています。

オスモビュアスペシャルサイト
RO浄水システム「オスモビュア」の一
般家庭向け本体無料レンタルサービスに
ついて紹介しています。

プロダクトサイト
小型製品から大規模水処理システム、
運転管理まで、お客様のニーズに即
した情報を提供します。



IRカレンダー (平成25年10月1日～平成26年9月30日) ※平成25年12月6日現在の予定です。



オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営企画部 TEL.03-5635-5111
ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



オルガノ株式会社

企業コンセプト

Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは
かけがえのない地球の未来を見つめ
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- お客様にとって、最適な商品・技術・サービスを創造し、提供し続ける企業を目指す
- 株主様にとって、常に成長し、安定収益をあげる魅力的な企業を目指す
- 社員にとって、働き甲斐があり、誇りの持てる企業を目指す

株主の皆様へ



代表取締役社長

内田 敏行

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに当社の第69期事業年度（平成25年度）中間期のご報告をさせていただきます。

1. 当第2四半期連結累計期間の概況

当期間におけるわが国経済は、政府の経済政策、円安などを背景に、緩やかな景気回復に向かいつつあり、世界経済も債務危機に苦しむ欧州経済や成長に減速がみられていた中国をはじめとする新興国経済にも底入れ感が始まっていますが、全体としては未だ先行き不透明なまま推移しました。

当社グループを取り巻く市場環境は、国内では企業の生産活動は緩やかな持ち直しがみられるものの、設備投資の本格的な回復には至らず、主たる海外市場であるアジア地域においても、価格競争は一段と激しさを増しており、引き続き厳しい状況にあります。

このような状況の下、当社グループは、平成25年度より3ヵ年の中期

経営計画をスタートさせ、産業全般、海外、純水・排水両輪での事業拡大という事業ポートフォリオの転換をさらに加速させ、機動的な開発・製造・営業体制の構築を目指すとともに、一層のコストダウン、工事力の強化により、収益の改善に取り組んでおります。

この結果、受注高につきましては、国内ではほぼ前年同期並みに留まりましたが、海外では電子産業分野を中心に増加し、323億円（前年同期比1.6%増）となりました。

売上高につきましては、海外の産業全般で増加した一方で、国内では電力分野をはじめとする産業全般で設備投資やメンテナンス、改造工事の延期などにより売上が減少し、267億円（前年同期比9.4%減）となりました。

利益面につきましては、機能商品事業で採算を改善させたものの、水処理エンジニアリング事業において売上高の減少や売上構成の変化、採算性の低下などにより、営業損失4億円、経常損失2億円、四半期純損失1億円となりました。

当期の中間配当金につきましては、当期間の実績及び通期の見通しを勘案し、前期末配当金から2円減配となる1株当たり4円とさせていただきます。

2. 通期の見通し

当社グループは、海外産業全般や国内食品向けプラント・排水事業分野への取り組み強化を通じて受注の拡大を図ってまいりますが、引き続き設備投資やメンテナンス・改造工事の実施は低水準であると予想されます。

したがいまして、通期の業績見通しにつきましては、期初予想を修正し、売上高670億円（前期比0.4%増）、営業利益5億円（同85.7%減）、経常利益5億円（同85.9%減）、当期純利益3億円（同86.4%減）を見込んでおります。

受注につきましては、足元の引き合いは増えていること、海外において堅調であることなどから、期初計画の受注高750億円（前期比24.5%増）を据え置いております。

3. 今後の経営方針

現在取り組んでいる中期経営計画では「水処理事業分野における顧客のあらゆるニーズに対して、ワンストップソリューション（One Stop Solutions）が提供できる企業グループの実現」を中期経営ビジョンとして掲げております。

市場構造の変化に合わせ事業ポートフォリオを自立的に転換すべく、国内では、医薬・食品・化学などの一般産業分野に注力し、電力分野におきましては、石炭・LNG火力を含めた発電所向け用水・排水処理全般について積極的に取り組んでまいります。海外においては、今後も堅調な設備投資が見込まれる東南アジアを主な対象に、本年5月にタイに設立したエンジニアリング拠点及び調達拠点を中心として、技術力の強化やコストダウン・価格競争力の向上を通じ、地域ニーズに合わせた技術・製品の提供を進めてまいります。

4. 最後に

当社グループの総力を結集し、国内外で技術・商品開発力、営業展開力を高め、一層の業務効率化、コスト競争力の強化とともに、新たな成長軌道に乗るべく一丸となって取り組んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご指導の程、宜しく願い申し上げます。

平成25年12月

▶ プラント事業

電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄工程に欠かせない超純水の製造装置をはじめ、各種の排水処理設備、外部へ排水を出さずに循環利用するクローズドシステム、排水からの有価物回収システムなど、電子産業分野においてオルガノは世界トップレベルの技術を誇っています。



一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプ、繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して、プロセス用水の処理システム、各種の排水処理設備、水の回収・再利用システムなどを提供し、高い評価をいただいています。



電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。オルガノはこの分野で圧倒的なシェアを誇っています。なかでも発電所において主要水処理設備である復水ろ過・脱塩装置は、オルガノの独壇場として長年トップシェアを堅持しています。さらに、国内のみならず東南アジアや米国の発電所向けにも水処理装置を納入するなど、その技術力の高さを証明しています。



東京電力㈱ご提供

上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。上水道では沈でんろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理設備など、下水道では生物処理設備、高速繊維ろ過装置など、オルガノの技術が活躍しています。



医薬品分野

安全性が特に重要視される医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度でバイロジェン（発熱性物質）を含まない、高い安全性を有する水をつくるシステムを提供しています。



▶ ソリューション事業

メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

提案型サービス

既設水処理装置の設備診断とあわせて改善・改良を提案します。また、薬品使用量や廃棄物の削減など、環境負荷低減に貢献する提案を行います。

水処理アウトソーシング受託事業

■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括受託することにより、安心して装置をお使いいただけます。

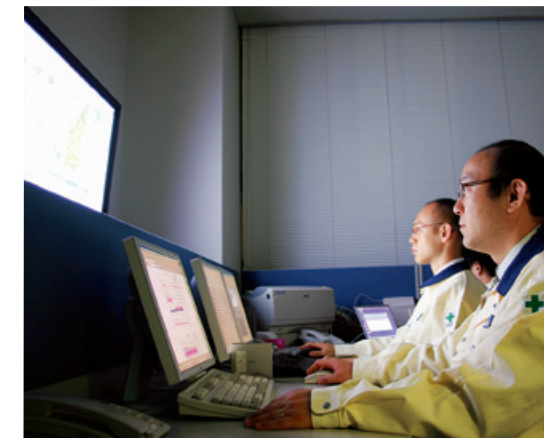


■ 処理水供給

お客様の工場内にオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

■ 遠隔監視

オルガノ本社内にある監視センターで、お客様の水処理装置の運転状況を遠隔監視しており、異常があった際の早急な現場対応をバックアップします。装置の運転データの変化を読み取り、予測監視により水処理プラントのトラブル防止に貢献します。



■ 運転管理

ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

▶ 機能商品事業

標準製品

純水装置はもちろん、水に新たな機能を付加する機能水製造装置など、お客様の短納期・低コストへのニーズに応える豊富な商品ラインアップを有しており、電子産業から食品工場、病院、研究所、レジャー施設まで、広く用いられています。

トレイン化純水製造システム「オルフェーブ」



2段RO膜ユニット RDシリーズ

電気脱塩式純水装置 EY-XP/EY-HFシリーズ

水処理薬品

冷却効果を高め省エネにつなげる冷却水処理薬品やボイラを効率的に運転するための処理剤、廃棄物の削減につながる排水処理剤など、水処理用の多様な薬品をラインアップ。装置と組み合わせたトータルシステムを提案し、安定運転を実現します。



食品加工材

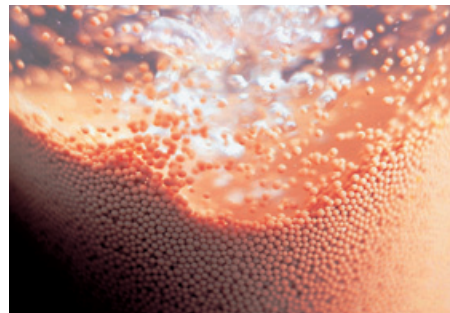
食品加工材の分野では、主にハムや即席めんの改良に用いられるリン酸塩が国内トップシェアの実績。その他、第三のビールに使用されるエンドウたん白をはじめ、様々な品質改良剤、食品素材を開発・製造・販売しております。オルガノの技術は豊かな食文化の創造にも貢献しています。



イオン交換樹脂

「イオン交換樹脂」の非水系分野への応用

イオン交換樹脂と言えば「水処理」の代表的な機能材料ですが、オルガノは水処理以外の分野への応用にも取り組んでいます。当社の超純水製造分野で培ったイオン交換樹脂のクリーン化技術を応用し、電子材料精製向けの乾燥イオン交換樹脂「アンバーリストDRYシリーズ」及び超クリーンイオン交換樹脂「オルライトDSシリーズ」を開発。電子材料として使用される高純度で高品質な有機溶媒、ポリマー等を製造するプロセスへの適用を進めています。これら電子材料精製向け樹脂は本年10月、第29回日本イオン交換学会技術賞を受賞しました。今後も当社のコア技術であるイオン交換樹脂のさらなる可能性を求めて、新分野を積極的に開拓します。

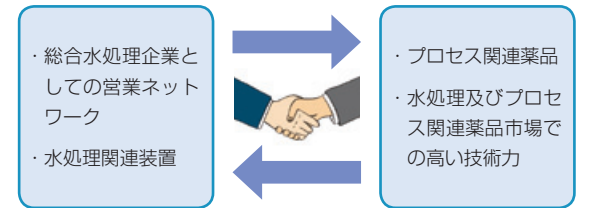


水処理薬品分野等で片山ナルコ株式会社と業務提携

本年7月、水処理関連薬品を中心とした各種工業用化学薬品の販売を手掛ける片山ナルコ株式会社と日本国内における水処理関連薬品、プロセス関連薬品、その他関連装置の各事業に関する業務提携契約を締結し、両社による協業をスタートさせました。

片山ナルコは、水処理薬品事業を営む株式会社片山化学工業研究所と、米国系水処理大手企業であるナルコ社の日本法人（ナルコジャパン合同会社）との合併会社です。ナルコ社は2011年に、米国においてホテル・外食産業、食品工場向け洗浄薬品販売大手であるエコラボ社の傘下に入っています。

今回の業務提携では、当社グループのもつ総合水処理企業としての営業ネットワークと、片山ナルコ及びエコラボ社の持つ水処理及びプロセス関連薬品市場での高い技術力を組み合わせ、新たなお客様への営業展開及び新たな商品群の投入を行うことで、両社の国内市場における競争力を強化し一層の事業拡大を図ります。本提携により平成27年度には、約20億円の売上拡大を目指します。



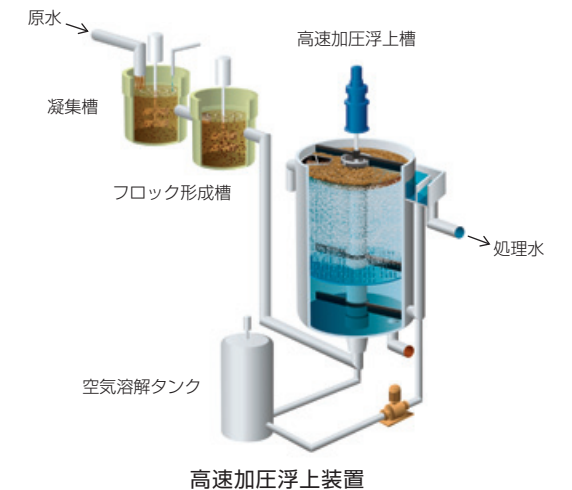
業務提携のイメージ

排水事業の強化・拡充

純水主体のビジネス体制から、純水・排水両輪で対応できる体制へ事業構造の転換を図るため、排水事業の強化・拡充に取り組んでいます。

本年4月にはグループ全体の排水事業の推進を目的に「排水統括部」を設立し、排水技術のとりまとめや拡大戦略のベースとなる技術方針の策定を行うなど、排水事業強化に向けた体制を整備しています。昨年6月には、従来法と比べて処理効率が高く、清澄な処理水が得られるMBR法（膜分離活性汚泥法）を用いた「オーファスOFAS-S1シリーズ」を発売、本年2月には微生物の保持や生育に適した接触材（担体）を用いて、高速処理を可能にした「流動担体型高速嫌気排水処理装置」の本格販売を開始するなど、製品・技術のラインアップも拡充しています。

また、水中の固形物や油などを従来の4倍の速度で処理できる「高速加圧浮上装置」も順調に納入実績を増やしており、当社グループの排水事業を着実に進展させています。



高速加圧浮上装置

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期末 (平成25年9月30日現在)	前期末 (平成25年3月31日現在)	比較増減
資産の部			
流動資産	52,244	60,671	△8,426
固定資産	24,527	24,637	△109
有形固定資産	21,070	21,338	△267
無形固定資産	388	326	61
投資その他の資産	3,069	2,972	96
資産合計	76,772	85,309	△8,536
負債の部			
流動負債	24,818	31,991	△7,173
固定負債	7,440	8,110	△669
負債合計	32,259	40,101	△7,842
純資産の部			
株主資本	44,324	44,805	△481
資本金	8,225	8,225	-
資本剰余金	7,508	7,508	-
利益剰余金	28,916	29,397	△480
自己株式	△325	△325	△0
その他の包括利益累計額	189	△39	228
少数株主持分	-	441	△441
純資産合計	44,513	45,207	△693
負債純資産合計	76,772	85,309	△8,536

◆流動資産

売上債権の減少などにより8,426百万円減少しました。

◆流動負債

仕入債務の減少などにより7,173百万円減少しました。

◆純資産の部

四半期純損失の計上及び配当金の支払に伴う利益剰余金の減少などにより693百万円減少しました。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	比較増減
売上高	26,791	29,566	△2,775
売上原価	20,343	21,979	△1,635
売上総利益	6,447	7,587	△1,139
販売費及び一般管理費	6,877	6,576	300
営業利益又は営業損失(△)	△429	1,010	△1,440
営業外収益	294	139	154
営業外費用	94	104	△10
経常利益又は経常損失(△)	△229	1,045	△1,275
特別利益	1	-	1
特別損失	2	20	△18
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△230	1,024	△1,255
法人税等	△96	367	△463
少数株主損益調整前四半期純利益又は 少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△134	657	△791
少数株主利益	-	23	△23
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△134	634	△768

◆売上高

海外の産業全般で売上が増加した一方、国内では電力分野をはじめとする産業全般で設備投資やメンテナンス、改造工事の延期などにより売上が減少したことから、売上高は26,791百万円となりました。

◆営業損失・経常損失

機能商品事業で採算を改善させたものの、水処理エンジニアリング事業において売上高の減少や売上構成の変化、採算性の低下などの影響により、営業損失429百万円、経常損失229百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,142	△2,348
投資活動によるキャッシュ・フロー	△985	△625
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,704	264
現金及び現金同等物に係る換算差額	273	47
現金及び現金同等物の増減額	1,725	△2,662
現金及び現金同等物の期首残高	8,804	10,273
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,529	7,610

◆営業活動によるキャッシュ・フロー

5,142百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は売上債権の減少によるものであり、主な支出は仕入債務の減少によるものです。

◆投資活動によるキャッシュ・フロー

985百万円の資金流出となりました。主な支出は投資有価証券の取得によるものです。

◆財務活動によるキャッシュ・フロー

2,704百万円の資金流出となりました。主な支出は短期借入金の減少、長期借入金の返済及び配当金の支払によるものです。

当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末に比べて1,725百万円増加し、10,529百万円となりました。

セグメント別業績

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)
■受注高		
水処理エンジニアリング事業	22,833	22,022
機能商品事業	9,521	9,812
■売上高		
水処理エンジニアリング事業	17,464	20,253
機能商品事業	9,326	9,312
■営業利益		
水処理エンジニアリング事業	△1,000	556
機能商品事業	570	454

【水処理エンジニアリング事業】

当事業におきましては、国内では受注はほぼ前年同期並みに留まりましたが、電力分野をはじめとする産業全般で設備投資やメンテナンス、改造工事の延期などにより売上が減少しました。一方、海外では電子産業分野を中心に順調に推移し、受注及び売上ともに増加しました。営業利益は売上高の減少や売上構成の変化、採算性の低下などにより減少しました。この結果、受注高22,833百万円、売上高17,464百万円、営業損失1,000百万円となりました。

【機能商品事業】

当事業におきましては、顧客工場の操業度が緩やかに回復している中で、受注及び売上はほぼ前年同期並みとなる一方、採算を改善した結果、受注高9,521百万円、売上高9,326百万円、営業利益570百万円となりました。

注）本報告書は決算短信などの数値、文章を基に作成しています。その後に公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては、当社ホームページの掲載資料などにてご確認ください。

会社概要

商号 オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)
 創業 昭和21年5月1日
 資本金 8,225,499,312円
 従業員数 連結1,882名 (単体718名)
 事業内容 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。

主要な事業所

本社 〒136-8631
 東京都江東区新砂1丁目2番8号
 開発センター 相模原
 工場 つくば、いわき
 事業所 長崎
 支店 北海道、東北、中部、関西、中国、九州、台湾

主要なグループ会社

■ 連結対象子会社

(国内) オルガノ北海道(株) (海外) Organo(Asia)Sdn.Bhd.
 オルガノ東北(株) 奥加諾(蘇州)水処理有限公司
 オルガノ東京(株) 奥露佳瑞科技股份有限公司
 オルガノ中部(株) Organo(Thailand)Co.,Ltd.
 オルガノ関西(株)
 オルガノ九州(株)
 オルガノプラントサービス(株)
 オルガノフードテック(株)
 オルガノアクティ(株)

取締役・監査役・執行役員

取締役社長	内田 裕行
取締役兼専務執行役員	山根 修二
取締役兼常務執行役員	奥園 修一
取締役兼常務執行役員	浦井 紀久
取締役兼常務執行役員	渡辺 大輔
取締役兼常務執行役員	伊藤 智章
取締役兼常務執行役員	豊田 正彦
取締役兼執行役員	古内 力
取締役	江守 新八郎
常勤監査役	中村 聖和
監査役	中根 俊章
監査役	星 一也
執行役員	砂岡 好夫
執行役員	羽多野 敦
執行役員	長谷川 雅順
執行役員	梅香 豊
執行役員	明賀 春樹
執行役員	吉田 重人
執行役員	安藤 正士
執行役員	山口 良一
執行役員	下畑 昌樹
執行役員	高杉 仁

(注1) 内田裕行、山根修二は代表取締役であります。
 (注2) 中根俊章及び星一也は社外監査役であります。
 (注3) 中根俊章は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

■ その他グループ会社

(国内) オルガノ山下薬品(株) (海外) Organo(Singapore)Pte Ltd
 オルガノ・ハイテック(有) Organo(Vietnam)Co., Ltd.
 環境テクノ(株) PT Lautan Organo Water
 オルガノエコテクノ(株)
 東北電機鉄工(株)

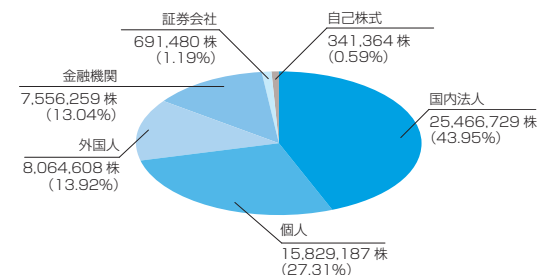
株式の状況

● 発行可能株式総数 126,960,000 株
 ● 発行済株式総数 57,949,627 株
 ● 株主総数 8,285 名

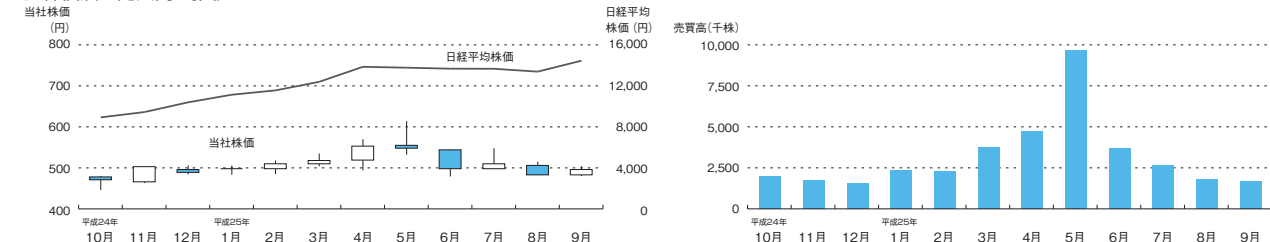
● 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,222	2.11
ケービーシー セキュリティーズ エヌバイ クライアッツ アカウント ノントリーティ	1,204	2.08
株式会社みずほ銀行	1,000	1.73
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	993	1.71
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) アカウント ユーエスエル ノントリーティ	784	1.35
みずほ信託銀行株式会社	775	1.34
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	763	1.32
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	749	1.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	561	0.97

● 所有者別株式分布状況



● 株価及び売買高の推移



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
 単元株式数 1,000株
 公告掲載方法 電子公告
 公告掲載アドレス <http://www.organo.co.jp/>
 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 連絡先 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)
 受付窓口 三井住友信託銀行株式会社 全国本支店
 ホームページアドレス <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

株式に関する諸手続きのお申し出先について

■住所変更、配当金受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続きにつきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。
 ■証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様の株式の諸手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
 ■未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社の全国本支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザ・i-Stationを除く)でお取り扱いいたします。